

C-34 農村婦人作業衣の変遷 オノ報 — はきものについて —
県立秋田農業短大 日浅治枝子

目的 農業用被服の一部であるはきもの類の目的は、農民が行なう各種の農業労働時の、足部を保護するものである。かつて農民のはきものは、自家製作によるわらじ、わらじうり、あしなか、各種雪ぐつ等であつたが、これらのはきものも、求から野良への往復に用いる場合が多く、実際には大半の農民が裸足、つまりはだしで農作業に従事してきたのである。しかし現在、すべての農民は農作業の内容に応じたはきものを着用して農作業を行なっている。裸足からはきものを着用に至った動機は多々あるが、これらの動機、要因等と明らかにする一方、今後益々進展する農業ならびに農業技術の變化に適合するはきものの開発も考えたい。

方法 昭和27年以降行なつてきた全国各地の農山漁村における農作業衣変遷の実態調査に付随して、はきものの變遷も調査してきた。主として農村婦人を対象に、聞き取りならびに実物調査を行ない、一部は文献による調査も行なつた。

結果 現在、農村各地域において用いられるはきもの類は、水田作業の場合、ゴムたび、ゴム長靴、田植用特長靴等が多く、わら製品のはきものは激減している。これらは戦後急速に着用が広まつたものであるが、はきものの種類に地域性が見られる。

一方、畑作業の場合は、全国共通して地下たびの着用が多いことに注目される。水田作業の場合、裸足からはきものを着用するに至った動機のオノ負は、戦後急速に普及した稲作技術の變化に対応するものと考えられるが、次いで近年農村一般における保健衛生思想の普及もまた無視できないことである。